

JICA 研修員 9 名が「海の 10 モード」を受講

JICA（独立行政法人国際協力機構）研修員 9 名が 8 月 28 日、当研究所を訪れ、400m 水槽などの研究施設を見学するとともに、海の 10 モード等に関する講義を聴講しました。

JICA による研修は 2009 年 12 月に承認された「日 ASEAN 交通分野における環境に関する行動計画」（AJ-APEIT）に基づく国別実施計画の策定に必要な知識の付与と AJ-APEIT のドラフト策定支援を行うのが目的で、今年度は 3 カ年の研修の最終年となります。同研修は 8 月 27 日にス

タートし、9 月 21 日まで執り行われました。

同日、当研究所を訪れた研修員はカンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、タイ、ベトナムの各国省庁等で交通分野における環境対策を担当している職員の皆さん。400m 水槽をはじめ、実海域再現水槽、操船リスクシミュレータの 3 施設を見学した後、当研究所の宇都正太郎・流体設計系長が行う海の 10 モード指標の導入を中心とした講義を受講しました。



宇都系長（前列中央）と研修員の皆さん



「海の 10 モード」の講義風景

ベルリン工科大学の R・Stark 教授が来所

ベルリン工科大学の Rainer Stark 教授が 8 月 30 日、当研究所を訪れ、茂里一紘理事長と懇談するとともに、実海域再現水槽などの研究施設を見学しました。

Stark 教授は 1964 年生まれ。専門領域は機械工学。特に設計工学、設計情報技術としてプロダクトデータ利用、製品表現、3次元 CAD 利用、バーチャル技術などを専門としています。また、米自動車メーカーであるフォード・モーターで製品開発におけるバーチャル・プロダクト利用のテクニカル・ディレ

クターとして勤務した経験もあります。2008 年よりベルリン工科大学の教授に就任し、現在は同大学の Departments of Machine Tools and Factory Management 学部長。また、ブラウンフォーファー研究機構教授を兼任しています。

Stark 教授は茂里理事長と当研究所の近年の研究・開発動向を中心に活発かつ和やかに意見交換した後、深海水槽をはじめ、操船リスクシミュレータ、実海域再現水槽の 3 つの研究施設を見学しました。



Stark 教授（中央）と茂里理事長（左）



深海水槽で